

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

111

特集展

東北の伝承切り紙
—千葉惣次コレクションを中心にして—

福島県立博物館



特集展

「東北の伝承切り紙

―千葉惣次コレクションを中心に―

会期 平成二六年一月三〇日(木)～三月二七日(木)



岩手県一関市白澤神社

紙を小刀で切るとそこから魔法のように生まれ出る美しい造形。それはシンプルな御幣から複雑な形が重なる神棚飾りまで、多様な造形を披露してくれます。もしも紙という素材が神々しさをまとうとすればこうなるに違いない、と思わせるほど力が満ち溢れています。なにしろ、この紙の造形は神の来臨の目印であったり、存在そのものを示すものでさえあるのですから、崇高な空気を発するのは当然かもしれません。

今回の特集展は伝承切り紙の美しさに心ひかれ、東北各地をめぐり集めた千葉惣次さんのコレクションを中心に展示します。千葉さんは千葉県の長南町に伝わる土人形、芝原人形の継承者であると同時に、郷土玩具の研究・収集家でもあり、幅広い活動をなさっています。

千葉さんは二〇一一年三月の震災後の東北も歩いていました。そのなかで、ご自分の収集した資料を東北で展示したいという思いを強くしました。白羽の矢が当たったのが福島県立博物館。「切り紙を集めて本にしました。集めた資料を展示しませんか」というお話しをいただいて、すぐに二つ返事で「ぜひとも！」とお願いしました。なにしろ綺麗で美しく、しかも神秘的なのですから。

さて、千葉惣次さんの収集なさった切り紙は「東北の伝承切り紙」という写真をたっぷり使った本に収録されています。その切り紙の美を崇高なまで格調高く記録したのが写真家の大屋孝雄さんです。お二人で東北を回られた成果がこの本に集められています。今回は特集展ということで展示図録は発刊できないので、この本が図録の代わりを果たしてくれることになりました。

この本の大屋さんの素敵な写真で、実際に家屋の中で、生活の一場面として使われている切り紙の様子もご覧いただくことになりました。とても清々しく素敵な伝承切り紙の世界をお楽しみください。



宮城県気仙沼市
琴平神社



福島県二本松市：
養泉院の金包



宮城県本吉郡南三陸町
入谷・八幡神社

■主な展示資料

- ・福島県二本松市養泉院の切り紙
- ・岩手県一関市白澤神社の切り紙
- ・宮城県気仙沼市琴平神社の切り紙
- ・宮城県本吉郡南三陸町入谷八幡神社の切り紙
- ・福島県郡山市の法印さんの切り紙
など

■展示解説会

日時 三月九日(日) 一三時三〇分

講師 千葉惣次さん

大屋孝雄さん

場所 収蔵資料展示室

写真 大屋孝雄さん撮影

企画展「考古学からの挑戦

―東北大学考古学研究所の軌跡― 関連行事

企画展に関連して、三回の講演会を開催しました。その概要を紹介します。

●記念講演会1

「東北大学の旧石器文化研究

―日本最古の文化を掘り下げる―

講師：東北大学総合学術博物館 柳田 俊雄さん
 期日：平成二五年一〇月二二日(土)

一回目の講演会では、今回の企画展で紹介した東北大学における歴代の先生方のなかで、芹沢長介先生の研究業績を中心にお話していただきました。芹沢先生は群馬県岩宿遺跡の発見以来、明治大学および東北大学において、日本における旧石器時代研究のパイオニアとして、北海道から九州地方までの広い地域をフィールドに遺跡を調査し、多くの成果をあげてこられました。柳田



講演会1

先生にはその意義について、スライドを使いながらわかりやすく解説していただきました。このなかで特に注目されたのは、「前期旧石器」の問題です。柳田先生は、ご自分が芹沢先生とともに行ってきた、栃木県星野遺跡と大分県早水台遺跡の調査についてその成果を詳説され、日本列島には確実に前期旧石器文化は存在するということを強調されました。

●記念講演会2

「サハリン考古学の先駆者 伊東信雄博士」

講師：東北大学大学院文学研究科教授 阿子島 香さん
 期日：平成二五年一月三日(日・祝)

二回目の講演会は伊東信雄先生が主人公です。伊東先生は、昭和八年と九年に単身で樺太(サハリン)を訪れ、鈴谷貝塚や乙名丘遺跡などを踏査しています。阿子島先生は平成一二年、ご自分でもサハリンに渡られ、伊東先生が踏査した遺跡や博物館を訪れています。お話では、その時に撮影した遺跡やサハリンの風景写真を紹介しながら、伊東先生のサハリンにおける考古学研究的意義などについて詳しく解説してくださいました。そして、伊東先生のサハリンにおける考古学的な調査成果は、同地の考古学研究者に



講演会2

大きな影響を与え、東北大学とも交流のあるサハリン国立大学のアレクサンダー・ワシレフスキー教授等からも高い評価を受けていることについても紹介してくださいました。

●記念講演会3

「弥生文化・古墳文化・続縄文文化」

講師：福島県考古学会顧問 中村 五郎さん
 期日：平成二五年一月二三日(土・祝)

中村先生はまず、『会津風土記・風俗帳』や『新編会津風土記』などに掲載されている会津の考古学に関する記事を手がかりに、会津における考古学研究的黎明期について話しされました。また、江戸時代後期から幕末ごろにかけて編纂された『会津石譜』と『増削会津石譜』には、遺跡の地名表が掲載されており、これが全国の地名表の先駆けとなっていることも紹介されました。後半は、山内清男と伊東信雄両先生が、弥生土器と続縄文土器をどのように理解していたのかについて、宮城県南小泉遺跡、青森県垂柳遺跡、秋田県寒川Ⅱ遺跡出土の土器を材料にわかりやすく解説していただきました。



講演会3

Q…博物館には貴重なものばかり保管しているのですよね。

A…たしかにそうですが、「貴重」という言葉と直接的には結び付かない資料が多数あるかもしれません。

Q…たとえばどんなものですか？

A…七〜八年前になりますか、展覧会を開催するために資料を探していました。そのときは「衣類」をテーマにしていたので、チラシをつくって募集してみました。博物館の受付カウンターにおいたぐらいだったので、あまり期待していませんでしたが、いくつか問い合わせがありました。そのとき集まった衣類は、どこ

その後お付き合いができました。ときどき電話がかかってきて、お宅を訪ねると、いろんなモノを出してきて、あげるよ、と言われました。ときには断ったものもあるのですが、亡くなった御主人が骨董屋で買った壺だとか、座卓だとか、そういったものまでもらってきていました。モノを寄附するというのはきつと

きつかけで、実はその女性はいろいろお話したかったようでした。というのも、たつぷりと一〜二時間お話を聞くことが多かったのです。嫁に来た頃の話からはじまり、夫と出あった話、その前に会津出身の性格俳優とまだ若いころ一緒に職場で働いていて、その後

博物館ってどんな資料を集めているのだろうか？

Q&A
回答者
民俗担当
榎陽介

でも見ることのできない「逸品」というわけではなく、むしろかつては普通にどこにもあるものでした。しかし、ここが重要なのですが、資料と一緒にそれにつながる話を聞かせていただきました。つまり、資料というモノにエピソードという背景がセットになってついできたのでした。単品ではどうか、と思ったものでも、エピソード付きだったら結構興味深いかもしれないと思いただきました。

Q…そうですか、そうなるモノだけではなくって、情報も必要だということですね。

A…そうなんです。しかもその中のお一人とはずっと

ずっと年賀状のやり取りなど、交流が続いたこと。夫が趣味人で音楽（アコーディオンも民謡も！）、スポーツ（野球にスキー）などなんでも得意だったことなど。スキーの縁で黒い稲妻といわれたイタリアの冬季オリンピック優勝者トニー・ザイラーと一緒に滑ったことなど。民謡の縁で、宮田輝アナウンサー（NHKのど自慢を担当しその後国会議員にもなった人です）も会津に来ると遊びに来たことなど。だんだん話は横に広がって、そういった話は、普通の博物館の「民俗学」とか「歴史学」という枠組みからは外れているものですが、「面白くてついつい聞いていました。」

Q…そうなんですか、お年寄りの話を聞くということも博物館の仕事なんですか？

A…仕事というか、お話を聞くということは重要な資料収集手段でもあるわけです。そうそう、この女性の名譽のために付け加えておきますが、いただいたものすべてが一般世間では価値がほとんどない、というわけではなくって、無名時代から付き合いのあった版画家、斎藤清画伯の版画も一枚寄贈していただきました。

Q…ずいぶんと面白そうな話ですね。しかし、こういった話やいただいたものをどうやって博物館として役立てていくのですか？

A…たしかにそうですね。それで、この女性と、資料を受け入れ話を聞いた学芸員の、ある意味でプライベートなお話をもとに資料を整理し、ミニ展覧会を開いてみようと考えています。出会ってどんなお話を聞かせていただき、どんな資料をいただいたか。そうして、全体として、個々ではないような世界になつていたら成功ということになります。

Q…ちよつと面白そうな展覧会ですね。

A…ぜひ見て下さい。こんなものも、資料として命があるのだということがわかって頂けるでしょう。



いただいた掛け寝巻き

会津の絵ろうそく

佐々木長生

民俗担当



絵ろうそくの絵付け ろうそくの表面に豆汁（ごじる）を塗り、その上に菊・牡丹等の花模様を描く。図は絵付け後、薄く蠟をかけているところ（上げ）。山口弥一郎氏撮影（昭和36年）

平成二十五年NHK大河ドラマ「八重の桜」は、会津藩士の娘・山本八重、同志社大学創立者・新島襄の妻となる八重の生涯をドラマ化したものである。終盤のオープニングの一部には、会津の伝統工芸のひとつでもある絵ろうそくの製造シーンが、全国の家庭に放映されていた。

会津地方では古くから、漆の実から蠟を絞り、ろうそくを製造してきた。漆は幹から漆液を採取し、会津では会津漆器の名のもと、漆の樹液から漆器と、蠟の二大産物を生み出してきた。特に、会津藩では農民に年貢蠟を課し、生産から販売まで専売制のもと、一括統制してきた。藩では江戸・大坂に蔵元をおき、各地へ蠟を販売し、会津藩の重要な財政源でもあった。会津は江戸にも近く、会津産の漆蠟は需要も多く、会津を象徴する産物のひとつでもあった。

会津の蠟で注目すべきものに、絵ろうそくがある。文化四年（一八〇七）の『若松風俗帳』によると、「色白き、上蠟にて蠟燭を掛、其めぐりへ、草木、花鳥、魚□を画、或は筆筍のかたち掛、是を色彩色して、其上蠟に留（塗）る、又画の高低肉置して蒔絵のごとくなるもあり、仏前等へ是を燃すに火の光りを以一円と画、透通り明かに見ゆるゆへに一興なり」とあり、筆や筍の形や蒔絵のように高低の絵



絵ろうそく（会津民俗館蔵）

柄のろうそくの存在が記載されている。これらは絵ろうそくの原形とも言えるもので、会津若松市内の絵ろうそく店に保管されている。

文化六年の『新編会津風土記』によると、「画蠟燭」とあり若松大町の斉藤八郎兵衛が、「近キ頃此品ヲ巧ミ出セシヨリ今多ク広マレリ」とあることから、一九世紀初期頃から造られたとみられる。現在も会津若松市内では、九州方面から樫蠟（はぜろう）を求め、三軒のろうそく店が絵ろうそくの伝統技術を伝えている。

テーマ展「博物館に漂着した資料たち

— 会津に生きた女性にいただいた資料から —

会 期：平成26年2月20日(木)～3月26日(水)
会 場：県立博物館部門展示室「歴史・美術」

どうしてこんなものをもらったのか？ どこにでもありそうだし、貴重なものとは見えないけれども？ 本当に受領してよいのか、たしかに迷いもありました。ある大正生まれの女性が寄贈してくれた資料から見てくるものとは、はたして何なのだろうか？ その答えは展示室で！



弁当袋



雑巾

企画展

「写真展 東北―風土・人・くらし」

本展は写真評論家・飯沢耕太郎氏の監修のもと、東北にゆかりのある、世代も表現もさまざまな一〇組の写真家による作品で構成したものです。

一九五〇～六〇年代の農村を撮影した千葉禎介、小島一郎、東北各地の民俗儀礼や祭りなどを追った芳賀日出男、内藤正敏、田附勝、自らの個人史と故郷の光景を重ね合わせる大島洋、畠山直哉、東北の美しい自然にカメラを向ける林明輝、縄文時代の遺跡を通じて日本人の精神の起源を探る津田直による作品、そして伊藤トオルをリーダーに宮城県仙台市の「無名の風景」を集団で撮影した「仙台コレクション」のシリーズです。



東日本大震災の被害状況をリポートするものではなく、さまざまな表現をもちいた写真家の視点を通して奥深い東北の魅力を伝えることを目指しました。

*国際交流基金によって企画された本展は、北京、イタリヤ、オーストラリア、マレーシア、インドなど五年間にわたって世界四〇都市を巡回する予定です。

主催 福島県立博物館・国際交流基金

■会期：四月一九日(土)～五月一八日(日)

四月一九日(土)一三時三〇分～一五時 福島県立博物館講堂 入場無料

記念対談「縄文の再生」東北―風土・人・くらし展を巡って

飯沢耕太郎(写真評論家・本展監修者)、赤坂憲雄(当館館長)

特集展

※常設展料金でご覧いただけます

「東北の伝承切り紙・土葉惣次コレクション」を中心にして
会期 1月30日(木)～3月27日(木)

テーマ展

※常設展料金でご覧いただけます

「ふるさとの考古資料4 大熊町 遺跡探訪」
会期 H25年6月18日(火)～H26年5月11日(日)
「けんばくの宝2013」
会期 H25年12月21日(土)～H26年2月2日(日)
「博物館に漂着した資料たち―会津に生きた女性にいた
だいた資料から―」
会期 2月20日(木)～3月26日(水)

ポイント展

※常設展料金でご覧いただけます

「米作りをはじめた頃の土器」
会期 H25年10月26日(土)～H26年3月2日(日)
「古代山岳寺院 棚倉町流廃寺跡」
会期 H25年10月26日(土)～H26年3月2日(日)
「食卓を彩った昔の道具たち」
会期 H25年12月19日(木)～H26年2月19日(水)
「石英と水晶」
会期 2月7日(金)～3月30日(日)
「小さなひな祭り」
会期 2月27日(木)～4月9日(水)
「近世の水制工法」
会期 2月28日(金)～3月30日(日)

ミュージアムイベント

館長サタデープロジェクト・真冬の学習
「ふくしまの震災被害とミュージアムのこれから(仮)」
日時 3月15日(土) 13時30分～16時
会場 福島県立博物館 講堂
講師 双葉町教育委員会 吉野高光さん
アクアマリンふくしま 津崎 順さん
館長 赤坂憲雄 学芸課長 藤原妃敏

木曜の広場

「会津風土記・風俗帳の世界」10

日時 1月16日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

「会津風土記・風俗帳の世界」11

日時 2月27日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

「会津風土記・風俗帳の世界」12

日時 3月27日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

講演・講座

※は要申込

○民俗講座

映像で考える民俗学3「会津の初市を考える」

日時 1月11日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 視聴覚室

講師 学芸員 二瓶清伸

映像で考える民俗学4「会津の彼岸獅子を考える」

日時 3月1日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 視聴覚室

講師 学芸員 内山大介

○歴史講座

歴史の中の旅1「江戸時代の観音巡礼」

日時 1月25日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 学芸員 高橋 充

歴史の中の旅2「斗南への道」

日時 2月1日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 学芸員 阿部稜子

歴史の中の旅3「新島襄が見た福島」

日時 2月8日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 学芸員 古山智行

歴史の中の旅4「明治期 子供雑誌に見る富士登山」

日時 2月22日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 学芸員 佐藤洋一

○考古学講座

※「勾玉・ガラス玉を作ろう」

日時 3月8日(土) 13時～16時

会場 福島県立博物館 実習室

講師 学芸員 高橋 満

後援事業

会津史談会公開講座「講演『会津乱世日記について』」

日時 3月6日(木) 13時～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 第12回会津史談会賞受賞者 松崎 健さん

やさしい展示解説

*展示解説員による常設展総合展示の案内です。

*毎週土曜日、日曜日の10時30分と14時から30分ほど
行います。

*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集
を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い
合わせください。

*その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定
やホームページをご覧ください。

1月～3月の休館日

1月1日(水)・4日(土)・6日(月)・14日(火)
20日(月)・27日(月)
2月3日(月)・10日(月)・12日(水)・17日(月)
24日(月)
3月3日(月)・10日(月)・17日(月)・24日(月)
31日(月)